

血液検体の梱包発送方法

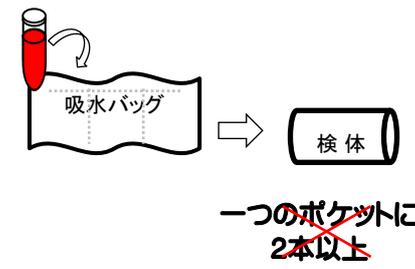
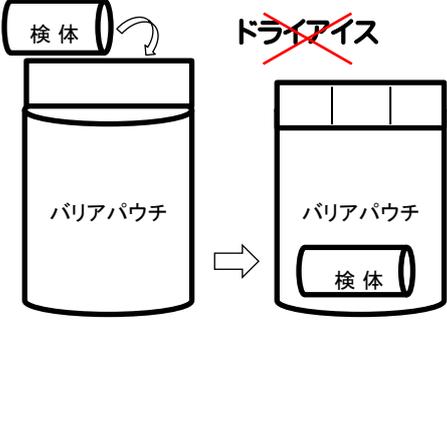
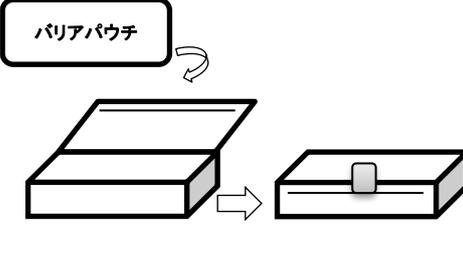
■事前の準備

- 梱包資材や外箱は弊社より事前に送付、送付伝票は日通最寄営業所より配達されるよう手配します
- 株式会社スギヤマゲンの梱包資材
(バリアパウチ、吸水バッグ、バリアボックス、セキュリティーシール)
- 発砲スチロールの外箱(バリアボックスが入るサイズ)
医療機関にてご用意できない場合は弊社よりお送りします
- 日通エクスプレスハイスピード便 着払送付伝票

■日本通運エクスプレスハイスピード便の注意事項

- 品名欄には「適用免除検体」とご記入ください。冷蔵冷凍便は不可となります。
- 採血時から24時間以内に弊社へ必着するよう、必ず伝票の「お届け希望日」のご記入と「時間内サービスAM8-9時」にチェックを入れてお送りください。
- 受付日・時間帯は、祝祭日を除く平日の火曜日～金曜日、午前必着となります。
事前に宅配業者の対応可能な集荷時間と、梱包作業を遅くとも何時までに終えるべきかをご確認いただき、採血日程を調整してください。

■梱包手順

 <p>吸水バッグ</p> <p>検体</p> <p>一つのポケットに 2本以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 血液が入った採血管を、吸水バッグのいずれかのポケットに収納します。ポケットの数分の検体を収納できますが、ひとつのポケットには1本のみを収納してください。 採血管を覆うように端から巻いてテープなどでとめます。
 <p>検体</p> <p>バリアパウチ</p> <p>ドライアイス</p> <p>バリアパウチ</p> <p>検体</p>	<ul style="list-style-type: none"> これをバリアパウチの底の方へおさめます。 余分な空気を抜いたあと、ジッパーの中央部から左右方向におさえて、しっかりと密閉します。※バリアパウチの中に、ドライアイスおよび検体以外のものは絶対に入れないようご注意ください。 フラップの接着面にかぶせてある白い剥離紙をはがし、折り線で手前に折り曲げ、おもてと裏の三本線をぴったり重ねます。 フラップの中央部を強く押し付け、左右両端へ押し込んでいき、密閉します。
 <p>バリアパウチ</p> <p>バリアボックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> バリアボックスを組み立てます。 検体を入れ密閉したバリアパウチをコンパクトにたたんでバリアボックスにおさめます。 セキュリティーシールを貼付位置に貼ります。 ここまでの作業は、バリアパウチ表面のQRコードからも参照いただけます。

<p>緩衝材</p> <p>依頼書</p> <p>検体情報確認書</p> <p>ドライアイス</p>	<p>外箱梱包方法①気温の影響を受けない時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先程のバリアボックスが入るサイズで、密閉できるふた付きの発砲スチロールの箱を用意します。 ・検体を入れたバリアボックス、依頼書、検体情報確認書の3点を入れてください。 ・すき間は新聞紙などの緩衝材でうめてください。 ・ドライアイスは絶対に入れないでください。 ・ふたを完全に閉めた後、ふたが開かないようテープでしっかり固定します。 ・最後に、日本通運の送付伝票に必要な事項を記入、見やすい場所に貼付し、発送します。
<p>緩衝材</p> <p>依頼書</p> <p>検体情報確認書</p> <p>緩衝材</p> <p>冷やしただけの保冷剤</p> <p>ドライアイス</p>	<p>外箱梱包方法②夏の非常に暑い時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密閉できるふた付きの発砲スチロールの箱を用意します。 ・凍らせていない「冷蔵庫で冷やしただけ」の保冷剤を用意し、発砲スチロールの箱の底に置きます。冷凍庫で凍らせた保冷剤の場合、検体が冷えすぎて測定に影響を及ぼしたり、測定不能となる場合もございますので、絶対に入れないようご注意ください。 ・次に緩衝材をその上に入れます。 ・検体を入れたバリアボックス、依頼書、検体情報確認書の3点を入れてください。 ・すき間は新聞紙などの緩衝材などでうめてください。 ・ドライアイスは絶対に入れないでください。 ・ふたを完全にしめたあと、ふたが開かないようテープでしっかり固定します。 ・最後に、日本通運の送付伝票に必要な事項を記入、見やすい場所に貼付し、発送します。
<p>隙間がなくなるまで</p> <p>緩衝材</p> <p>依頼書</p> <p>検体情報確認書</p> <p>ドライアイス</p> <p>カイロ</p>	<p>外箱梱包方法③冬の非常に寒い時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密閉できるふた付きの発砲スチロールの箱を用意します。 ・検体を入れたバリアボックス、依頼書、検体情報確認書の3点を入れてください。 ・次に、保温効果をもたせるために、新聞紙などの緩衝材を、箱の中の隙間がなくなるぐらいの量をしっかりと入れていきます。 ・ドライアイス、使い捨てカイロなど、緩衝材以外のものは絶対に入れないでください。 ・ふたを完全にしめたあと、ふたが開かないようテープでしっかり固定します。 ・最後に、日本通運の送付伝票に必要な事項を記入、見やすい場所に貼付し、発送します。